

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-161	16-133	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Associations of repeated high alcohol use with unsafe driving behaviors, traffic offenses, and traffic crashes among young drivers: Findings from the New Zealand Drivers Study. 若者における飲酒と危険運転、交通事故との関連について		
執筆者		
Begg D, Brookland R, Connor J.		
掲載誌		
Traffic Inj Prev. 2017 Feb 17;18(2):111-117. doi: 10.1080/15389588.2016.1224345. Epub 2016 Aug 30.		
キーワード		PMID
若者、飲酒、危険運転、交通事故		27574719
要 旨		
<p>目的： 若者において、運転免許取得の段階別の飲酒状況を明かにし、危険運転、交通事故との関連を検討する。</p> <p>方法： New Zealand の 25 歳未満の運転免許取得希望者 1,599 人を対象として、運転免許取得の段階（1 期 学科 2 期 仮免許 3 期 免許取得）毎に、飲酒状況を調査し、その後の危険運転、交通事故との関連をポアソン回帰で相対危険度(RR)を算出した。飲酒状況は Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT-C)で調査を行い、AUDIT score 男性 4 点以上、女性 3 点以上を飲酒多用者と定義した。危険運転は自己申告、交通事故は警察の記録を用いた。</p> <p>結果： 多用飲酒者の割合は全期 26%、1 期 22%、2 期 30%、3 期 22%であった。多用飲酒を申告した回数（期数）が多いほど危険運転や交通事故の件数が多く、ポアソン回帰の結果、多用飲酒を申告した回数（期数）が多いほど危険運転や交通事故の RR が上昇することが確認された(飲酒運転交通事故の RR(95%信頼区間)(参照群:飲酒多用報告 0-1 回) 報告 2 回 4.0 (2.2-7.1), 報告 3 回 4.8 (2.6-8.9))。</p>		